2027年3月期 第2四半期決算説明会（2026年11月16日（月）開催）における質疑応答

No.	質　　問	回　　答
1	業績連動に伴う賞与引当金の影響額の内訳について、売上原価、販管費、それぞれでどの程度ですか。 また、下期にも影響がありますか。	上期の賞与引当金繰入額は、ご説明した通り前期比13.3億円増加しておりますが、売上原価と販管費それぞれの内訳については公表しておりません。 業績連動型の職員賞与については、通期の業績見通しに基づく支給見込額を、原則として各四半期に均等に賞与引当金として計上しております。 前年度も同様に計上していましたが、下期の業績予想の上方修正に伴い支給見込額を見直したため、賞与関連費用の計上額が下期に増加しました。 一方、当年度は期初から業績見通しを反映して計上していることから、下期における前年同期比の費用増加影響は、上期ほど大きくならないと見込んでおります。
2	27.3期上期の個別受注高は前年同期比+6.6%だった一方で、27.3期通期計画の修正がなされなかったため、個別受注高は前期比0.1%と下期が減速する計画となってますが、下期にかけて受注環境が悪化するのでしょうか。	受注環境は引き続き堅調です。今期は計画どおり上期に受注が集中しており、通期計画には案件ごとの受注時期を織り込んでいます。 下期もお客様の設備投資需要を着実に捉え、通期計画の達成に向けて取り組み、さらなる受注の積み上げを目指してまいります。
3	エンゲージメントスコアの改善について、どのような項目の改善が貢献していますか。 他社と比べて大きく上回っているとのことですが、それについて廣島社長はどのようにとらえていますか。	2023年度からの改善とAA評価の維持は、前向きに受け止めています。処遇改善、人材育成、柔軟な働き方や職場環境の整備が、働きがいと組織への信頼を支えていると考えています。部署別の課題を把握し、社員が能力を発揮できる職場づくりを進めます。
4	第2四半期の売上総利益率が第1四半期と比べて大きく改善している要因を教えていただきたいです。	主な要因は、大規模開発案件や生産施設、データセンター、リニューアル工事などの進捗に加え、案件構成や原価管理の取り組みが寄与したことによるものです。 第2四半期の利益率改善は期首計画に沿ったものであり、今後も工事の進捗状況や案件構成による変動はありますが、引き続き収益性の確保に努めてまいります。
5	上期の営業利益が昨年度とくらべて減少している要因を改めて教えていただきたいです。 昨年度は一過性的な収益の押し上げ要素があったのでしょうか。	上期の営業利益が前年同期比で減少した主な要因は、業績連動賞与を中心とした賞与引当金の増加によるものです。 昨年度に一過性の収益押し上げがあったことが主因ではありません。